

学習編

「国語脳」と「理系脳」の育て方

「本好きな子に育てたい」——多くの親が望むことです。本が好きになると、さまざまな知識が吸収できるようになりますし、たくさん本を読むことは、論理的思考の形成にもつながると言われています。

男の子の読書の傾向として、すごく読む子とそうでない子に二分化されるようです。この時期の男の子は、まだまだ見えない敵と戦っていることも多く、本に対してまったく興味を持たない子がいるのも事実です。

男の子は「やらされてる感」を嫌います。本を読まない子に向かって、「この本を読みなさい」「この本は学校の授業のためになるらしいよ」などと押しつけるのは逆効果。

また、すごく本を読む子でも、歴史なら歴史一辺倒と、同じテーマの本ばかりになる傾向がありますが、「歴史の本ばかり読んでいないで、他の本も読みなさい」などと押しつけるのもまたNGです。

子どもが読書にはまるタイミングはいろいろ。授業のときに好きな先生がすすめてくれた本がきっかけとなることもありますし、学校の図書館でたまたま見つけた小説に目覚めることもあります。どこではまるかわからないけれど、はまったらとことん突き詰め、読破していくのが男の子。その日を楽しみに待ちましょう。

またこの時期、算数、理科に関連するいわゆる「理系脳」が、これまでの学習で漠然と頭の中に入っていたそれぞれ知識がまとまりはじめることで、グンと伸びるタイミングと言えます。

算数では計算問題がだんだん難しくなってきましたが、「この考え方をすると正しい答えを導き出すことができるんだな」と、すっきり気持ちよく理解できたとき、算数がより好きになりますし、理科の実験などでも、筋道を立てて結論を導き出すことができる、俄然興味が湧くものです。